

しんご

第23号



1999年 5月
(財) 日本野鳥の会 三重県支部

● 発信をしよう ● 杉浦 邦彦 (支部長)

今、里山はすっかり新緑に覆われ、目を見張るように刻々と景観が変化し、まるで巨体の恐竜が笑っているようです。

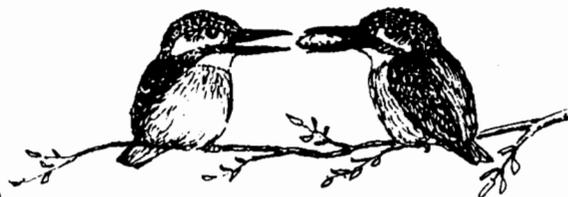
桜の開花は順当な北上が常識だと思ってきましたが、今年の東海地方は少し異状でした。内陸部の名古屋、岐阜の各市がいち早く開花し、南部沿岸の尾鷲、伊勢、津などの各地は少々遅く、また花の命も短かったようです。また、大気汚染に強いと言われる常緑広葉樹のクスノキやカシノキは、葉が凍害にあって黒くなり、一ヶ月あまりも早い落葉となりました。その、目の覚めるような赤緑、黄緑、白緑に彩られた若葉は、里山の斜面を自然のカンバスにして、街路樹のケヤキは瑞々しい新芽が団塊状となって芽吹いていました。農耕地では、田畑を縫うように流れるコンクリート三面張りの川の中で、辛うじて生育したヨシ原に枯草の凹地ができ、北への帰り支度をしているツグミやコガモたちの恰好の隠れ処となっていました。

そこで感じたことは、この冬彼らに出会う機会が少なかったこと、出会った彼らは例年になく痩せ、羽毛の色彩にも光沢が豊かでなかった

ことです。例年の春の冬鳥は、体格が丸々と太り、羽毛は体の中心から光沢を帯び、いかにも健康そうに見えますが、今年は秋に北方から日本へ渡り着いたばかりの姿と同じです。これでは繁殖地へ、無事にたどり着くことができるのか心配です。ゴミ処理のための埋め立てを中止した、話題の藤前干潟の鳥たちはどんな状況なのでしょう。

藤前干潟と言えば、日本政府が野鳥のために干潟の埋め立てを中止したことは勿論のこと、地元からも様々な情報発信をし、旧政策からいち早く脱却したのが最大の快挙であったと言われています。

我々三重県人は、県外へ一步出て自ら情報発信をすることが少ないといわれます。自然との共生の哲学は、自ら切磋琢磨し、自然の変化を敏捷に捉えることからはじまります。野鳥を通して本来の自然、すなわち「自ずから然り」ということを身近な人から人へと情報発信し、伝えていきたいと思う次第です。



目次

今月の表紙 絵：富岡 康之

- 巻頭エッセイ・今月の表紙 1
- 特集 支部の活動
 - 総会開催 2
 - 各部に聞く 4
 - 保護部・企画部・事務局
 - 編集部・研究部
 - 各地区便り 9
 - 北勢・伊賀・津・松阪・南勢
- お知らせと報告のページ 12
- 会員のページ 14
- 探鳥会報告 16
- お知らせ・編集後記・奥付 17

☆☆☆今月の表紙☆☆☆
 伊勢型紙・オシドリ夫婦
 鳥羽市にお住まいの富岡 康之さんは、探鳥歴4年目。バードウォッチングをきっかけに、仲間とのハイキングや木彫、伊勢型紙へと楽しみ方を広げておられます。
 本物のオシドリ夫婦以上に仲の良い(?)奥様も、一緒に探鳥会にご参加いただいています。

1999年度三重県支部総会開催・成立

さる4月25日日曜日午後1時半より、津市の三重県生涯学習センター大研修室にて、本年度の三重県支部総会が開催されました。若葉香るさわやかな陽気のもと、42名の会員が出席され、すべての議事が承認されて新年度の新しいスタートとなりました。



総会の成立

まずは、出席者と委任状数の確認により総会の成立が認められました。高橋副支部長の司会のもと、はじめに市川副支部長より開会宣言、続いて杉浦支部長の挨拶があり、最近の藤前干潟埋め立て中止をめぐる動き、中部新国際空港の建設に伴う県内での土砂採取の問題などの問題提起と、野鳥を通じて自然の大切さを訴えていこうというお話がありました。次いで議長と議事録署名人の選出が行われ、議事に移りました。

議事（議長：加藤光廣理事）

まず、1998年度の事業について各部長および事務局からの報告、次いで財務部と監事より、1998年度の決算の報告が行われ、異議なく承認されました。出席者からの「支部の運営は会費収入だけでまかなえるのか」という質問に対して、現状ではほぼまかなえているという財務部長からの回答でした。

続いて、本部の入会金が1000円に改定されたことにより、支部規則の入会金についての項目を一部変更することについて、事務局

から提案があり、規則中の金額についての変更が承認されました。

次に役員を選任について。本年度は2年に1度の役員改選にあたるため、理事会で推薦された27名の新役員について、原案が示され、拍手で承認されました。

役員改選に伴い、あらたな体制で本年度の体制が発足するわけですが、新役員の任期は総会終了後となります。そのため、1999年度の事業計画についてはそれぞれ旧部長より発表がありました。企画部、保護部、編集部、研究部の各部の事業計画の内容については、4ページからの特集記事をご覧ください。

次いで、財務部より1999年度予算案が示され、原案通り承認されました。予算の内容はおおむね前年度同様ですが、前年度の黒字分は今期の予備費に繰り入れること、事務所への電話（ファックス）導入計画に伴い、理事・監事の旅費（前年年間一人1000円支給）、事務局長通信費（同年年間8,000円支給）、及び探鳥地マップの配

1999～2000年度支部役員（任期2年）

(理事) 北勢地区 市川雄二 尾畑玲子 加藤光廣 木村京子 木村裕之 近藤義孝 植原葵
津地区 高橋松人 平井正志
伊賀地区 田中豊成 西口章一 塗矢 博一 前澤昭彦
松阪地区 谷本勢津雄 中村洋子 西村四郎 保平長三 三村明子 三村通雄
南勢地区 今村禎 小坂里香 杉浦邦彦 中村みつ子 西村泉 橋本祐子
(監事) 高 和義・村田芳雄 ※下線は本年度新規に役員になられた方です。

- 改選に伴い、下記の方が役員を退かれました。長い間お疲れ様でした。今後とも支部活動への変わりぬご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

武田恵世 橋本富三 林淳子 矢田栄史 山中久次 世古口有司

以上 敬称略

布を中止する等の変更がありました。

以上、拍手をもってすべての議事が無事承認され、市川副支部長の閉会宣言により1999年度総会は閉会となりました。

来年度も、より多くの会員の皆様のご参加をお待ちします。

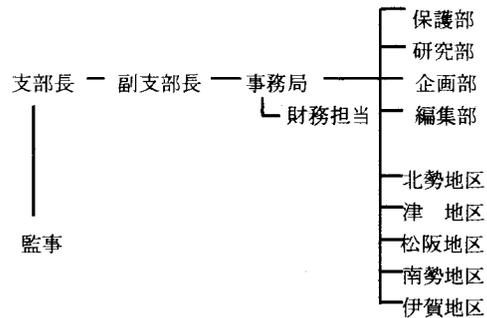
参加者の声

総会という重苦しいイメージとは裏腹に、和やかな雰囲気、野鳥の会には寛大な人が多い、という印象を持ちました。まだ入会して一年、どうして鳥や自然を守る必要があるのか、自分では説明できない部分もあり、色んな方の考えを参考にさせてもらっています。

まだまだ「嘴」が黄色いですが、よろしくお願ひします。

深田 将希くん・高校生。

【参考】 三重県支部組織図



支部長、副支部長、事務局長、本部評議委員については、「財団法人日本野鳥の会三重県支部 規則 第2条第2項」によって、理事会において互選することになっています。

※ 予算・決算の内容、総会の資料等につきまして、必要な方は、事務局までお問い合わせ下さい。

各部の昨年度事業報告について～各部長の報告の概略～

研究部…鳥獣保護区設定効果調査(県委託)、ガンカモ調査(県委託)、シギチドリ全国カウント(日本湿地ネットワーク主催)、種の多様性調査(環境庁委託)、平成10年度自然環境保全地域現状調査(三重県環境保全事業団委託)などの委託調査を、会員の協力を得て行った。

企画部…探鳥会は36回予定のうち雨天中止を除き33回実施した。企画部としては初心者向け探鳥会、野鳥講座(2回)、バードウィーク行事としてテグス拾い探鳥会、愛知県との木曾岬合同探鳥会、三重県動物学会との合同探鳥会などを実施。また、「釣り糸、釣り針捨てないで」というポスターを作成、県内の小中学校をはじめ各機関、会員等に配布した。その他探鳥会の標準化のため、リーダー携帯用の「リーダーズカード」を作成した。また、昨年度販売事業の売上利益は161,416円あった。

編集部…98年度はしろちどり発行が年4回のところ3回になってしまった。発行の遅れもあった。

保護部…しろちどり保護活動、重要保護地域リストアップ、コアジサシ営巣地保護活動などを行った。重要保護地域の公表方法については、現在部内で検討中。

事務局…昨年度は総会1回、理事会6回を開催した。その他、霞4号線のルート変更の要望書回答について、安濃川河口砂州の除去について(県から工事中止の連絡)の報告等。

1999年度第1回(通算第7回)「野鳥講座」開講

総会終了後、同じ会場で企画部による「野鳥講座」が開催されました。今回の講師はミセス・サシバこと伊勢市にお住まいのベテラン会員・吉居瑞穂さん。吉居さんは、野鳥の会に入会後まもなくから長年にわたり、自宅近くを通過するサシバの渡り調査に心血を注いでこられました。この日はこれまでの調査・観察の経験からわかってきた、サシバと里山の環境の変化との関わりについて、わかりやすくお話していただき、また南勢地区のタカ類の第一人者、Kさんの調査された、サシバのかつての営巣状況についてもご紹介いただきました。

吉居さんに劣らずサシバファンでいらっしゃるご夫君によるOHP操作、パソコン通信を通じた春の渡り情報紹介などの絶妙のフォローぶりに支部長も絶賛。里山の自然の荒廃と、サシバの重要なえさとなるヘビやアカガエルとの関連なども紹介され、参加者からアカガエルの卵塊の減少について質問がでるなど、一同熱心に耳を傾けていました。

●各部に聞く 1999年度の活動●

三重県支部では、いくつかの部局に別れて運営を担当しています。今年度の活動の予定について、各部の担当者にインタビューしました。

保護部 部長：谷本勢津雄

保護部とは…

保護部…というと、なにやら厳しい感じがしますよね。でもとても身近なことだと思うんですよ。私たちの住んでいる近くに鳥たちや虫、動物、植物があつたりいたりします。そこが川だったり、海だったり池だったり、また丘や、山だったりします。そこが何かの開発によって無くなってしまふ。そこに住む鳥や動物、虫や植物などがどこかへ行ってしまふか消えてしまふ。そんなの嫌だなー、と考える。そのことが保護の第一歩なんです。どんな保護でもそれが原点、そこから始まります。どうしよう。どうすれば良いのかしら。そう思ったとき保護部を思い出して下さい。保護は、そこに住む人たちが直接関わっていくことが大事なことです。私たち保護部は、それを後ろからバックアップします。もちろん、もっと大きな組織が動かなければできない保護もあります。その時は保護部が他の地域や支部、または本部と協力をして動きます。

99年度の体制

99年度は保護部長・谷本勢津雄、
 部員・平井正志、田中豊成、西村泉、
 加藤光廣、西村四郎、西口章一、
 近藤義孝、三村通雄、三村明子、
 協力員・高和義、村田芳雄、が担当します。
 もちろん理事以外の方もどんどん参加していただきたいのです。自分の住んでいる地域の自然がなくなっていくのを黙って見ていることが出来ない、何とかこの自然だけは残したいと思っ
 ている方はみんな保護部員なんです。

- ・会員と共に考え行動する
- ・緊急性を考え順次行政に働きかけをする
- ・会員内外に自然保護思想の普及をはかる

本年度は、この3つを柱に活動していきたいと思っています。

現在行っている主な活動

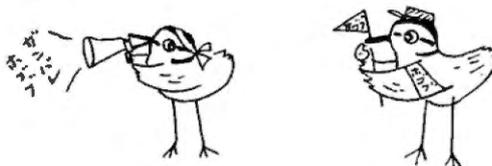
- 1、シロチドリ保護活動
 吉崎海岸、豊津浦にある砂浜で繁殖するシロチドリの保護調査活動
- 2、重要保護地域リストアップ
 現在重要保護地域として44カ所のリストを作成しているが、全体を発表するのではなく、とくに河川敷や里山の公園化により緊急に保護策を講じなくてはならないところから順次公表し、行政各担当機関に働きかけていきます。
- 3、臨港道路霞4号線に対する干潟保護運動
 四日市港管理組合が計画の中の新設道路が川越町の高松海岸を縦断して干潟が大幅に減少するため、ルート変更を申し入れる。干潟を通さないようねばり強く運動したい。

この他にも県内でいろいろな活動を行っています。



部長の独り言

私は野鳥の会だけでなくいろいろな会に所属している関係から、夜はつい遅くなってしまうことがあります。そのために保護部員や理事、地区会員の方々と意思の疎通がうまくできないときがあつて困ることがあると思います。出来れば電話ではなくFAXか手紙、又はインターネットのメールで連絡していただくと嬉しいです。



保護部の連絡先…谷本 勢津雄

Email addは

FAX番号は

です。

その他各保護部員まで。

事務局 事務局長：木村 京子

事務局とは…

事務局では、主に支部の運営に関わる事務（総会・理事会の準備、その他）を行っています。また、委託調査等の契約事務、鳥獣保護区等の設定に関する意見書の作成・提出や、本部や外部からの問い合わせの窓口となっています。

99年度から、毎週木曜日に事務を行うことにしました。木曜日の午後には、発送作業などをしに数名の会員が支部事務所に来てくれます。様子を見てみたい方、お手伝いしていただける方は、ぜひお越し下さい。（事務所は午前10時から午後3時まで開いています。ただし、お休みの場合もあるので前もって電話でご確認ください。）

99年度の体制

今まで独立していた財務部が、今年度から事務局の中に組み込まれ「財務担当」となりました。事務局長・木村京子、財務担当・楢原葵の2名で担当しています。三重県支部事務局は事務局長一人だけ、という体制からやっと脱却したわけですが、依然として事務仕事の煩雑さは相変わらず…。ワープロ打ちを杉野幸子さんにお願ひしていますが、他に「事務やります」という方、ご連絡下さい。

財務担当は何をしているか？

今度、「部」とか「長」がとれた。やっている仕事は会計であり、部員も必要としないのが現状である。しかし、特別会計が増えて、年度末には照合チェックに人手がほしいと思うことがある。

会員も皆様のおかげで、99年3月31日現在、424件（注・1家族で一件）となり、年間848千円の会費収入が見込まれるようになった。

98年度は、主に県関係の委託事業6件、事業部、シロチドリ保護委員会等の会計が特別会計となっている。

支部となって担当者に有難いことは、支部会費が振替で払込まれることである。これによって領収書を一々書くことなく、帳簿記入も一行で済み、名簿管理も必要でなく、月に一度郵便局へ行って振替を引き出し、預金とする。後はカードで引出し、各種の支払いに当てるだけである。各四半期には、残高試算表を作成している。年度末には各部や委託事業担当者から報告が集まってくるので急に忙しくなる。チェック済みで送られてくる書類も、受けるほうでは、もう一度チェックしなければ自信がもてないの

事務局からのお知らせ

支部事務所ご利用案内

●99年4月から会員サービスのため、毎月第3土曜日にも事務所を開ける事にしました。会員同士の交流の場としてお役立ていただくほか、他支部の支部報や書籍、調査の報告書なども是非、お気軽に見に来てください。時間は午後1時半より、4時半までです。事務所の場所については「しろちどり」22号の14ページをごらんいただくか、事務局にお問い合わせ下さい。

バードメイト募集

●今年も本部より、バードメイト募集のお知らせが来ています。バードメイトのは一口1000円のご寄付で会の自然保護活動を支援していただく仕組みで、今年で4回目になります。本部では現在里山の保護活動に力をいれており、（バードメイトになっていただいた方にさし上げている）ピンバッジの今年のデザインは、里山の湿地に生息する「タマシギ」です。事務局にも届きましたので、ご支援いただける方はご連絡下さい。

で行う。特別会計は該当する帳簿に仕訳記入する。メ切る為には証拠書類を再度点検する。残高試算表の左右がバランスすれば、決算記入をし、精算表を作成して財産の増減と収支が合致するか計算する。合致すれば収支計算書と貸借対照表を作成して監査を待つこととなる。これらの各段階で、一円でも相違があれば再度チェックしなければならない。

金銭の送達は対面して行う場合は比較的簡単だが、郵送や銀行での払込みは大変面倒である。

予算の作成、支部会計の部門別使用明細もまた面倒である。

担当者として、困ることのひとつは、関係者が締め切りを守ってくれないことである。領収書や清算書、委託契約書の写しなど、必要書類を決められた期限に提出してもらえないと仕事が滞ってしまう。スムーズな会計処理のため、是非ご協力を願いたい。

担当・楢原 泰

財務担当のお手伝い募集!!

財務の仕事に興味ある方、経理の腕に覚えある方、是非事務局までご連絡下さい。

編集部 部長：小坂 里香

編集部とは…

編集部の仕事は他の各部に比べて簡単明快、ずばり、支部報「しろちどり」をつくることです。なあんだ、と言わないでください。支部報は会員と、組織としての会の活動を結ぶ太い太い糸、動脈と言ってもいいくらいのものであると自負しています。その役割は、

- 1、支部活動の基本である自然保護の理念を啓発するお手伝いをする
- 2、支部の活動について、会員の皆さんにわかりやすくお知らせする
- 3、投稿などを通じ会員相互の交流を図るというようなことです。

99年度の体制

今年度は部長・小坂里香、部員・中村みつ子の理事2名のほか、林淳子、吉居瑞穂、山田昭子の一般会員3名の体制です。編集作業の効率化を図るため、南勢地区の会員で固めていますが、内容に地域的偏りがないよう心がけていきたいと思っています。そのために、各理事の皆さんを通じ、原稿の執筆や依頼をお願いしていきます。「しろちどり」は年4回、5月、8月、11月、2月の各月末発行する予定です。

今年度24号以下の特集記事(予定)は下記のとおりです。

24号・三重県の干潟と海岸線

25号・野鳥のために出来ること～身近な自然保護

26号・三重県の河川環境を考える
と、書き並べただけでもどよめきがおきそうな、たいそうなテーマですが、看板倒れにならないよう、皆さんからの応援を期待しています。

編集部からのお願い

現在、探鳥会などの時に、リーダーの方を通じ原稿用のはがきをお渡ししています。渡された方は観念して(?)編集部にご協力下さい。探鳥会の感想でも結構ですが、野鳥や自然に関するエッセイ、詩や短歌・俳句、観察記録、論文、イラストや漫画、などバラエティーに富んだ内容を期待しています。はがきに入りきらない場合は封書、ファックス、パソコン通信などどんどんご利用下さい。勿論、はがきを渡されなかった方の投稿もお待ちしています。

と、お願いしておきながら恐縮ですが、原稿の量や内容によっては、非掲載や次回回し、書き直し依頼となる場合もあります。また、文意を変えないよう注意して添削させていただくこ

ともありますので、あらかじめご了承下さい。
(絶対添削してほしくない方は、その旨明記してください。) 編集部もここが頭の痛いところ
です。どうかお許しを。原稿のあて先などにつ
いては、最終ページをごらん下さい。

部長の独り言...

まだまだ経験も浅く、頼りない部長ですが、
バックに強力なブレン(編集部員)がついて
います。支部報の出来不出来は編集部の力にも
よりますが、皆さんの原稿によるところが大き
いと感じる今日この頃。
お力添えよろしく願いいたします。

編集部の連絡先...

小坂 里香 (Tel.)



研究部 部長：木村 裕之

1、研究部とは...

研究部では、野鳥とその生息環境の基礎的な
研究・調査を行うことによって、自然環境の変
化や人と自然のかかわりについてより高い視点
で提言できることを目標としています。とは
言っても、これは簡単なことではなく、日々の
研修の積み重ねが必要です。三重県支部として
の活動は、委託事業が多いですが、最近の傾向
として突然大きな事業が入ってくることがあ
り、気が抜けない状況です。

2、1999年度の体制

研究部の活動は、多くの人々が別々に調査する
傾向が強かったため、支部独立時より「全員が
研究部員」という体制で活動してきました。

本年度より前澤昭彦、尾畑玲子部員に参加し
ていただき活動を進めますが、理事以外の方も
興味のある方は遠慮なく申し出てください。

3、本年度の主な活動予定

1) ガン・カモ類一斉調査(県委託)

2000年1月15日に県内約155カ所で実施予
定。

※新たに参加希望の方は12月上旬まで
ご連絡下さい。

2) 鳥獣保護区設定効果調査(県委託)

鳥類のラインセンサス、哺乳類の生息調査、
環境調査を主とした調査で、鳥獣保護区の設定
に提言をしています。

○大宮町森林公園鳥獣保護区 9ha

○度会町小川郷鳥獣保護区 2100ha

3) 干潟の底生生物調査(支部)

県内の干潟の生物の基礎調査を行う予定。

○高松海岸、安濃川、田中川など

4) シギ・チドリカウント(支部)

春秋の渡りの季節に実施します。

部長の独り言...

仕事の合間を縫って、県下10カ所以上の調査
地を全て把握するのは、時期のずれがあるとい
うものの、なかなか困難なものがあります。
いろいろな体験をしてみたい人は、また一声
かけてください。

研究部の連絡先...

木村 裕之 (Tel.)



企画部 部長：橋本 祐子

○テーマ別展示品セットの作成
などを考えています。

企画部とは…

企画部では現在、探鳥会のスケジュール調整（企画・運営は各地区でお願いしています。）、バードウイーク行事、野鳥講座、研修会などの企画・運営、会員サービスとしての図鑑類など本部商品の販売を主な仕事として行っています。

●リーダー研修会は、7月に計画していますが詳細は未定です。後日ご連絡いたしますので、探鳥会リーダーのかたは是非ご参加ください。

99年度の体制

99年度は部長・橋本祐子、部員中村洋子、塗矢博一、保平長三の理事4名のほか、一般会員から橋本富三の合計5名ですが、まだまだ人手が欲しい！ということで部員募集中です。

今年度の活動内容としては

- リーダー研修会を充実させる
- 探鳥会をはじめ、行事のあり方を再検討する



企画部問い合わせ先…
橋本祐子 (Tel.)

企画部からのお知らせとお願い

○企画部員になってくださる方募集

イベントの企画、運営や展示品づくりなど、一緒にやっていただける方、ご連絡下さい。期間は2000年3月まで、募集人員は4～5名です。原則として、年3回（7月、11月、2月）の理事会の日に、理事会前の時間を利用して部会を開きます。難しい仕事ではありません。面白そうと思ったら、橋本までご連絡下さい。

○販売物について

本部販売物は、従来お電話等で注文を受け付け、お手渡ししていましたが、担当者の負担が大きく、今年度から一部の商品に限り、探鳥会などで販売するのみにします。その他の商品については直接カタログで本部に注文していただくことになり、送料が発生することがありますが、ご理解のほどお願いいたします。

支部の取り扱い商品（原則として）

図鑑類（フィールドガイド、ハンドブック山野の鳥・水辺の鳥、山溪出版の図鑑類）。日本野鳥の会のオリジナル書籍の一部、フィールドノート、会誌「野鳥」ファイル、野鳥の会オリジナルバードカレンダー、その他、オリジナルグッズの一部。

在庫商品につきましては担当者にお問い合わせ下さい。

担当・中村洋子 (Tel.)
各地区窓口・北勢地区～榎原泰、伊賀地区～塗矢博一、
松阪・津地区～中村洋子、南勢地区～中村みつ子

● 各 地 区 便 り ●

三重県支部は、三重県全体という南北に細長い広大な地域を統括しています。そのため、探鳥会などの企画・運営は5つの地区に分かれて行っています。このコーナーでは、各地区のお国自慢(?)をしていただきました。あらためて地域の自然の大切さが伝わってくるような内容です。地元での観察はもちろん、たまには、他地区の探鳥会に参加するのもいいものですね。皆さんも探鳥会だけでなく、地区の運営にも積極的に参加して、野鳥の会の活動をいろいろな形でご支援下さい。

北 勢 地 区

北勢地区は事務所を構える四日市市を中心に、西部は菰野町、北は藤原から桑名、西南部に鈴鹿、亀山を有していて会員も広く各地から入会している。

海岸部では商工業地帯の中で、朝明川河口、鈴鹿川河口に残されたわずかの干潟がシギ・チドリ類やカモメ類、サギ類の貴重な観察場所である。鈴鹿市には石垣池など溜め池が点在し、カモ類の越冬地として長年知られている。特に石垣池に隣接する西側の松林はサギ類やカワウの繁殖地である。また、三重県北部の愛知、岐阜県境を流れる木曾三川は冬季、カモ類やタカ類の多く見られるところである。野登山頂付近は、スギの大木やブナ林が分布し、四季を通じて野鳥の宝庫である。初夏になると、ホトトギス、オオルリ、ヤマガラ、ヒガラ、アカゲラなどが見聞きできる。県民の森や藤原岳も探鳥地として、素晴らしいところだ。

北勢の会員はそれぞれに自分のフィールドを持ち、記録をしたり写真に収めたりしている。ときどき事務所へ集まっては、各自近況報告を行ったりして、和気藹々のひとときを過ごす。

地区長の一言…

自然とともに過ごした幼少時代が懐かしく、目の前の自然破壊に胸をいため、何とかしなければと思いながら、どうにもできない無力さにさらに頭を痛める今日です。自然は未完成だから、手を加えなければいけないといった欧米流の考え方に基づいた、また経済の活性化のための巨大開発は必要なのか考える時期にきています。将来を担う子供たちに、一般市民に、自然のすばらしさや保護の重要性を訴えていきたいと思えます。仲間を増やし、お互いに学習を深めていきましょう。

市川 雄二(四日市市)

伊 賀 地 区

伊賀地区は盆地であり、内陸性の気候特性により夏は暑く、冬は大変寒い。なんと言っても他地区との違いは海岸線がなく、シギやチドリ、カモメ類にお目にかかることが難しい点である。そのため、初心者にも比較の見やすいこれら開水面での探鳥会ができない。唯一お手軽にカモ類の観察が可能であった

大山田村の真泥池も、周辺環境の変化や釣り人の影響で今までのようにはいなくなっている。ただ、山に囲まれているので小鳥類は多く、特に冬場はタカ類もよく見かける。探鳥会の開催は四十八滝や里山の保全で有名な赤目地方、真泥池のある大山田地区が多いが、青山高原（伊賀側）も良い探鳥地である。今年は「奥山愛宕神社」や「上野公園」などでも探鳥会を計画している。山の小鳥類などは、初心者には見づらいかもしれないが、逆境に負けず、野鳥や自然に親しんでもらいたい。

地区長の一言…

私自身は野鳥の写真を撮りたくて入会して10年になるが、伊賀にはベテランも多い。伊賀地区はあまり活動が活発でないといわれるが、今後何とかしていきたいと思っている。

塗矢 博一（上野市）

津 地 区

津地区は三重県の中央でありあまり広くないが、見どころも結構ある。海岸線では三雲町の海岸部には干潟があり、また海岸近くにまで田や水路があるため、シギ・チドリの飛来地となっている。おそらく県下で随一で

あろう。遠く、大阪や奈良から鳥仲間が集まる。また町中ではあるが、安濃川河口にも干潟がありシギ・チドリが多数飛来する。コクガンやミヤコドリ等珍鳥も現れる。津市から河芸町にかけての自然海岸では春にシロチドリが繁殖し、支部で保護活動を続けている。また津市に海岸保護のグループがあり、観察会や清掃などの活動を続けている。内陸の平野部は水田と里山であり、かつてはサシバの繁殖がよく見られたが、最近ではかなり減少しているようだ。津市南部の神戸丘陵は現在のところ開発を免れ、里山と放棄された水田が広がっている。里山を保護する活動が独自に進められている。安濃川上流の安濃ダム（錫杖湖）では毎冬オシドリが飛来し、探鳥会が開かれているが、最近の公園化工事で、飛来数が減っているのは残念である。山地はほとんどスギの植林地となっており、鳥の数も種類も少ない。しかし青山高原では2次林がかなり残されており、夏にはホトトギス、クロツグミ等が見られ、冬にはベニマシコ、マヒワなどが越冬する。

地区長の一言…

津地区は高橋副支部長の膝元であり、会員数は多いが、中心になって活動する会員が少なく、やや沈滞気味である。橋本富三氏は仕事が忙しく、休業状態。久住氏、岡、斎藤両女史の今後の活動に期待がかかる。活動に参加できる支部会員は地区長まで連絡いただければ幸いである。

地区長平井はなにをしているのか？

平井 正志（安濃町）

松 阪 地 区

松阪市から多気郡、飯南郡、度会郡の一部、北牟婁郡、尾鷲市、熊野市、南牟婁郡が松阪地区の範囲です。

この地区の特徴は、なんと言っても大台ヶ原を擁しているため平地から亜高山帯の鳥までが観察できるということです。また、海岸線も長いので、内湾性の鳥から

外洋性の鳥、島嶼の鳥も観察できます。松阪市の海岸には、春秋になるとたくさんのシギ・チド

りが渡来し、冬にはカモ類の姿も多く見られます。松阪公園や篠田山なども良い観察場所です。櫛田川、宮川の流域にはカワセミやヤマセミの姿も見かけます。紀伊長島から熊野にかけての海岸線は、すぐそばまで山が迫っているため、平地から山の鳥までが一気に見られるところです。相賀町の海岸がよく観察できる場所でしょう。和歌山との境を流れる熊野川の瀨峡には、冬になると数百羽のオシドリが集まり観光船が通っても逃げないため、じっくりと観察できます。大台ヶ原は大杉谷から登ると、カワガラスからキビタキ、頂上近くではコルリ、ルリビタキ、コマドリまで見る事の出来る場所です。

松阪地区で開催する観察会には、「釣り糸釣り針捨てないで」をテーマにした松阪港の観察会、松阪公園の観察会、三重大学演習林や尾鷲地区のものなどがあります。今年は尾鷲市から理事3名が誕生、探鳥会もいっそう充実していくでしょう。少し交通事情の悪いところもあるのですが、事前にご連絡いただければ乗合で行くこともできます。ご参加をお待ちしています。

地区長の一言…

ここの地区長の谷本は、あまり観察会に顔を出さない、ちょっとさぼり癖の付いた男ですが、時に大台ヶ原の観察会やら、キャンプなどを勝手に開催するので、注意して情報を集めてください。(笑) 実際の松阪地区の運営は、中村洋子さんにまかせっきりのような状態なので、心苦しく思っています。

谷本 勢津夫 (松阪市)

南 勢 地 区

南勢地区の活動範囲としては、山あり川あり海ありと、とにかくどこへ行っても探鳥地だらけの伊勢市、鳥羽市、度会郡、志摩郡となります。活動は主に伊勢が中心となっていますが、今年から理事になって頂く中村みつ子さんがホームグラウンドとする志摩地方でも活動をしていきたいと考えています。

メンバーは杉浦支部長をはじめ、橋本企画・小坂編集の各部長、西村泉、中村みつ子、今村禎各理事の他に世古口有司、西村幹和、林淳子、吉居瑞穂、などを中心に探鳥会のリーダー両手を広げてお待ちしておりますので、是非足をお運びください。

探鳥会としては、まず、秋のタカ渡り探鳥会があります。今年も「やすらぎ公園」で開催いたしますので楽しみに。そして、伊勢神宮を中心とした清流五十鈴川流域、宮川流域での「宮川ルネッサンス事業」に関連した探鳥会、「斎宮池」の定期探鳥会、オシドリとの出会いが楽しみな「神路ダム」の探鳥会などがあります。会員の皆さん、南勢地区の魅力的な探鳥会でお会いしましょう。

地区長の一言…

野鳥の会に入会 (当時は三重野鳥の会) してから早いもので17年もの時間が流れ、その間に結婚、そして娘が2人生まれ、今では高校2年と中学1年の少々くたびれた父親になりました。入会当時から比べると、鳥の数は確実に減り、自然環境はどんどん悪くなる一方だと思います。身近な自然を見守り、大切にしていけるのは当然ですが、東南アジアの自然破壊は日本人のために、私たちの知らないところで加速度的に進み、熱帯雨林は次々に伐採され夏鳥がやってこなくなる日も遠い未来の話ではないと思います。



“人間は、何も造らない 水も土も空気も人間は何も造らない”

今村 禎 (伊勢市)

しろちどり保護活動始まる
保護部

今年も、楠町吉崎海岸と河芸町豊津浦でシロチドリの保護活動を始めましたので、以下その報告をします。 高 和義:文

吉崎海岸

3月13日13時より三重県支部事務所倉庫から資材を積み込み、現地での作業は14時ごろから開始した。当日は薄曇りで寒くもなく暑くもない作業日和で、参加者14名で効率良く杭打ち、漁網張り、標識杭打ちをして16時ごろに終了した。

吉崎海岸での杭打ち風景



4月12日から1~2週間間隔に観察を始め、既に4月17日には2組のペアと1巣の営巣が見つかっている。

今年も楠町のお報せ版で杭打ちのボランティア募集をした。また、釣り雑誌「F-maga」に繁殖地に入らないようPRの投稿をして、同誌4月25日号に掲載された。

豊津浦

3月21日小雨降るなか10時に参加者17名が田中川右岸堤防に集合した。予報では本降りになることになっていたが、平井部長の決断により作業を開始した。我々の熱意が天に通じたのか作業のピーク時には雨が上がってきた。

2時頃に柵作り作業が終了したが、この頃からまた雨足が強くなってきたので、河芸漁港に場所を移し、7月中旬までの2週間間隔の観察当番を決め、空いている倉庫で休憩をとり解散した。

吉崎海岸、豊津浦とも、作業に参加された方に紙面を借りてお礼申し上げます。

保護部より

観察ボランティア募集

今年も7月末まで、1~2週間間隔で週末にシロチドリの観察をします。ボランティアで参加される方を募集します。ご希望の方は下記までご連絡下さい。平井 正志 (Tel.) または 高 和義 (Tel.)

本部より

「ヒナを拾わないで」キャンペーンにご協力下さい

今年も、野鳥のヒナの巣立ちの季節となりました。例年、この時期になると野鳥の会の会員というだけで(?)「拾った」「保護した」ヒナの相談を持ちかけられる方も多いと思います。(財)日本野鳥の会では例年、「ヒナを拾わないで」というキャンペーンを行っています。「落ちていいる」ヒナの近くにはたいてい、親鳥がいます。また、キジ、チドリ類、ヒバリなど、地上で子育てをする野鳥も多いのです。車の往来が激しい、猫が近くにいる、溝の中に落ち込んでいるなどの場合を除き、ヒナを見つけても出来るだけそっとしておきましょう。危険な場所なら、近くの低い木にとまらせるなど最低限のヘルプにとどめましょう。

本部作成のチラシもありますので、ご希望の方は事務局までご連絡下さい。



企画部より

「初めてのバードウォッチング
& 県立博物館展示について

一般初心者対象

「初めてのバードウォッチング」開催

県立博物館と共催で4月18日(日)に行いました。当日は朝から雨がひどく、中止かと思われましたが、参加者があるとの連絡を博物館から受け、開催となりました。参加者8名(うち、会員2名)、リーダーは橋本祐子1名の小規模なものとなりましたが、博物館の周辺で観察を行い、カラスの巣をじっくり見るなどしました。また、博物館に展示中の当支部のPR展示を見てもらいました。



県立博物館展示について

津市の三重県立博物館において、4月6日から7月18日まで、「野鳥も人も自然の仲間」展と題し、当支部の活動PR展示を行っています。「釣り糸釣り針捨てないで」キャンペーンや三重県の野鳥を紹介した写真の展示などの内容です。入館料も安いので、博物館の展示品の見学も兼ねて、お近くにお越しの際は是非お立ち寄り下さい

三重県立博物館
津市広明町 147-2
Tel 159-228-2283
第3展示室

企画部&北勢地区・松阪地区

「今年もやりました」テグス拾い

ゴールデンウィーク明けの5月9日(日)、磯津港、松阪港でバードウィーク行事として「テグス拾い」探鳥会を行いました。

磯津…(参加者13名) 鈴鹿川の河口で1時間ほど観察を行い(6羽のミヤコドリ出現!)磯津漁港に移動してテグス回収を行いました。回収したテグスは75グラム(メートルに換算して975メートル)ありました。

松阪港…(参加者24名) 愛宕川で観察のあと、松阪港でテグス回収。250グラム(3250メートル)の収穫(?)がありました。空き缶などのゴミの散乱がひどく、ゴミ拾いも行いました。

釣り人口は増加するばかり、テグス拾い探鳥会の参加者は頭打ち…。来年はより多くの参加者の力で釣り糸の被害を訴えましょう。



「しろちどり」ニュース

高校生の野鳥生息状況調査

県立川越高校の生物部の生徒の皆さんが、学校の付近で見られる野鳥の調査を行いました。第2名神高速道路や、北勢バイパス建設に伴う環境変化を調べるという調査の目的、季節ごとの個体数の増減をグラフ化する手法など、なかなか見所に富んだものとなっています。内容を詳しくお知りになりたい方は、事務局までお問い合わせ下さい。

四日市港臨港道路霞4号線その後

事務局 木村 京子

22号で掲載した臨港道路霞4号線のルート変更の要望書について、3月31日付けで四日市港管理組合から「ルートは変更しない」との回答が届きました。現行の計画では、貴重な自然海岸である高松海岸の干潟を縦断することになっており、干潟の生態系への大きな影響が考えられます。当支部では高松海岸の観察会を行う(5月16日 日曜日)などして干潟の重要性を訴え、ルート変更を訴えつづけていく予定です。なお、四日市港管理組合の回答書の詳細について知りたい方は、事務局までお問い合わせ下さい。

至福の一日

保平 長三 (尾鷲市)

3月7日(日)、尾鷲探鳥会の日、空は一面雲に覆われて今にも降ってきそうな様子。9時、やはり降り出した。世話人の三村さんにお伺いすると、「出かける」とのこと、早速支度して集合場所の「道の駅海山」へ向かう。雨は段々強くなる。が、集合場所にはみなさんもうお揃いだ。午前中は周辺地域の野鳥の状況等について谷本さんを中心に説明していただき、情報交換等をして知識を確かなものにする。昼食後、「ダイサギとチュウサギ」の見分け方などお聞きしているうちに雨は小降りになり、「ウグイス」の囀りも聞こえるようになってきた。その時、「あっ、ベニマシコ」との声。指さす方を見ると、なんと10メートルほど先の「アワダチソウ」の幹の上で、雄のベニマシコが枯れた穂の種子をついばんで

いるではありませんか。見事な色彩の雄を、しかもこんなに間近に見たのは生まれて初めてのこと、思わず見入ってしまいました。堪能するほどその麗姿を見せてくれた後、今度は高い木の梢にとまり、上尾筒の鮮やかな紅色を披露してくれました。谷本さんから「ベニマシコの名のいわれは、ましら(猿)顔面の色からきている」との解説を聞き、いっそう愛着の感を深めました。雨天の日の探鳥会、たいして期待もしていなかったのに、こんな素敵なお鳥が見られるなんて、誰も思いもしなかったと推察します。その分大きな喜びを感じたのは、私一人ではなかったでしょう。今回の探鳥会で学んだ教訓、「求めて歩き回るだけではなく、じっと待つことも大事である。」ということとともに、幸せな一日であったことを「至福の一日」としてご報告いたします。

五城探鳥会に参加して

富岡 康之(鳥羽市)

野鳥を見つけるのには、囀りや動き等に注意するわけですが、田んぼの向こうの森にイカル2羽、カワラヒワ3羽がとまっているのが初めはわからず、丁寧に教えていただいてやっと、クチバシのきれいなイカルを見ることができました。一人で歩いていたら見過ごしていたでしょう。声も出さず静かにしている鳥を探るのは、まだまだ難しいと思いました。

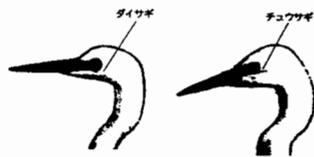
入会して3年あまりになります。鳥の種類とか鳴き声など、間違えたり、忘れたり、思い出すのに時間がかかったりします。でも1年目のころのことを思い出すと、少しずつ覚えてきたかな、と思います。幸いにもベテランリーダーをはじめ、みなさんのご指導をいただいたおかげだと思い、これからも野鳥観察を楽しんでいくつもりです。

..... **似て非なる「鑑別のヒント」**

その1 ダイサギとチュウサギ

谷本勢津雄

ダイサギとチュウサギは少し離れると大きさでは識別できませんが、倍率の高い望遠鏡を持っていれば、口の根元が目の後端より延びているかないないかで識別できます。



初心者にはわかりにくい、「よく似た野鳥」の識別ポイントをこっそり教えてもらうコーナーです。気前のいいベテランウォッチャーの投稿をお待ちします。

石垣池探鳥会に参加して

真田 ちか(四日市市)

午前8時、小雨。探鳥会、あるのかな。地図を頼りに娘と二人で急ぐ。集合時間の10時には本降り。まあ、雨でもカモ達はいるだろう。池のほわりには、もうウォッチングの人が6、7人集まっています。池にはマガモ、ヒドリガモ、キンクロハジロ等、一通りの種類がそろっていて、カワウの営巣、アオサギも見られ、見たことのない鳥は発見できなかったけれど、ハシビロガモが何十羽と集まってミス

テリーサークルの如く円をつくって泳ぎ、採餌しやすくしているのでは、と思われる光景を初めて見た。カモにはカモの知恵があるのだとおもしろく感じた。その一方で池の横の営巣地もやがて道路として開発されるとのことで心の痛む思い。また、会員の方が袋を持ち、釣り糸を拾われるのを見て、この次は自分も、と再認識した。

帰るまで雨はやまず、寒かったけれど人と鳥の出会いに感謝し、鳥達がこれからも無事で生きていけるようにと心から願いつつ、帰途についた。

藤原岳探鳥会に参加して

村木 克明(津市)

藤原岳に登るつもりで身支度をして行きました。残念ながら実現しませんでした。その代わりに、聖宝寺とその周辺で珍しい貴重な動植物に接し、大変満足してまいりました。東西南北の動植物の分水嶺と言われているだけに、その種類の多いことに驚かされる一方で、「自然を大切にしましょう」の看板とは裏腹に、石灰石や砂利の採取が行われているなど、自然が破壊されている様子を見て気になりました。

私がこの日初めて出会った鳥は、カケス、アカゲラでした。



オ オ ア カ ゲ ラ

巣箱に関する一考察

及川 郁郎 (鈴鹿市)

昨年12月暮れ近く、明治村(犬山)に出かけた。明治の面影というより、戦前の幼いころの田舎のたずまいと探鳥を兼ねての行である。やや風の強い日ではあったが、深い木立に囲まれているにもかかわらず、カワセミやヒガラらしい囀り、シロハラらしいもの、と、鳥に関しては寂しい限りであった。ただ、職員達が工作所で巣箱をつくっていて、帰るころにはそれが木に架けられていた。

小学生のころ(昭和12年頃)の思い出である。父にせがんで「巣箱の作り方」という小冊子入手して巣箱を作り、庭の木に架けたのである。冬の夕暮れ、梯子を架けて屋根板を開けて見ると、なんと四十雀が飛びだしたのである。これに勢いついて、5つもつくってあちこちに架けた。春になって期待通りにおおかたの巣箱で巣作りが始まり、ヒナの鳴き声が聞こえるようになってきた。ある日、四十雀のジュクジュクいう騒がしい鳴き声に気がつき、出てみるとなんと、青大将が腹を膨らませておいてくのではないか。ヘビが大嫌いな私

は、あわてて煙草の吸い殻を撒いたり、ブリキ板を根本に巻き付けて見たが、結局全部の巣がヘビにやられてしまった。

考えて見れば、あのころはどこにでも蛙がうじゃうじゃいて、従ってヘビもたくさんいた。それが今日、蛙は地を掃うように姿を消してしまった。私の大好きな四十雀も、あのころはどこにでもいたものだ。巣箱を架けさえすれば、すぐにでも増えて来ると思うのだが、どんなものだろう。

編集部注 巣箱をかけることが野鳥愛護のシンボリック行動にもなっていますが、人為的な関与はかえって野鳥には迷惑なことも少なくありません。及川さんの本文にもあるように、ヘビや、時には悪意ある人間に巣の場所を教えることにもなります。野鳥が安心して営巣できる環境(多様な樹種、樹齢の木からなる森林など)の保全や、農業の使用削減などを訴えていくことが大切なことなのではないでしょうか。

オホーツクへ

竹川 華子 (松阪市)

二月半ば、友達4人と流水クルーズのツアーに参加し、初めて北海道へ行って来ました。テレビで見たように、大きな流水

の上にオオワシが悠然ととまっている姿に出会えたらなあ、と思いながら…。運良く、オホーツクには沖合い2キロ先に流水が来ていました。砕氷船「おーろら」が青白い氷をばりばりと割りながら進む、その向こうに翼の一部が純白のオオワシがとまっているのを発見。友と歓声をあげました。

その後、人家もまばらなまっすぐな道を長い間バスに揺られ、鶴居村へ。そこで見たタンチョウは気品にあふれ、黒と白の体に頭上の赤が何とも言えず愛らしく、並んで飛ぶ姿は絵のようでした。

木の上いつまでもとまっているオジロワシ、図鑑を広げながらシノリガモ、ビロードキンクロ、ホオジロガモ、なども見つけました。

野鳥に出会い、何となく見過ごしてしまいうような季節の移り変わりを感じる事ができるようになり、充実した毎日をすごしています。



The Sence of Wonder

自然再発見

その1

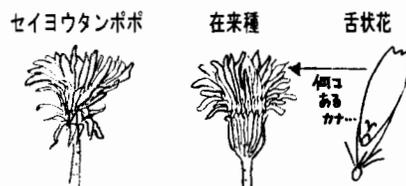
●タンポポウオッチング●

このコラムは、当支部理事で自然観察指導員三重連絡会会長の加藤 光廣さんにお願いしています。一年間連載の予定です。

春の野辺に普通に見られる花、タンポポをじっくり観察しましょう。この地方(北勢地区)では日本固有のカンサイタンポポ、帰化植物のセイヨウタンポポのほか、シロバナタンポポも加え3種類が普通に見られます。秋から冬にかけてもまだ咲いているのは、セイヨウタンポポです。このタンポポは花を包んでいる一番外側の「総苞」(がく)が垂れ下がっており、他のタンポポとすぐ区別できます。タンポポは多くの「舌状花」が集まって一つの「頭花」を形成しており、「離弁花」でなく「合弁花」です。

タンポポは「指標生物」です。皆さんの地域でも、分布を調べて「タンポポ地図」を作ってみてはいかがでしょうか。どのような環境でどのタンポポが優占しているのでしょうか。興味深い結果が出ると思います。

さて、タンポポは美味しく食べられる草花のひとつです。花は天婦羅に、葉はサラダやお浸しに、根はきんぴらに、というわけで捨てる所がありません。一度是非味わってみてください。



文：加藤 光廣 (桑名市)

探鳥会報告 (1~4月分)

●篠田山探鳥会 (松阪市)

日 時: 1月23日(土) 9:30~11:30

担 当: 中村洋子 宮田たつ

参加者: 20名

観察種: カワウ・ハシトガラス・ハシボソガラス・メジロ・ヒヨドリ・ウグ
 イス・ビンズイ・スズメ・ツグミ・アオジ・カワラヒワ・エナガ・モズ・キジバト・
 シロハラ・ミヤマホオジロ・シジュウカラ・ジョウビタキ・コゲラ・セグロセキ
 レイ・ヤマガラ 21種

●安濃川河口探鳥会 (津市) 雨のため中止

日 時: 1月24日(日) 9:30~11:30

担 当: 平井正志 久住勝司

●赤目の里探鳥会 (名張市) …動物学会と合同

日 時: 1月31日(日) 9:30~15:00

担 当: 塗矢博一 橋本祐子 (企画部)

参加者: 40名

観察種: ヒヨドリ・スズメ・セグロセキレイ・バン・ジョウビタキ・ハシボ
 ソガラス・ケリ・アオサギ・ハクセキレイ・タヒバリ・ムクドリ・ツグミ・キセキ
 レイ・アオジ・ホオジロ・ヤマガラ・キジバト・シジュウカラ・ハシトガラス・ト
 ビ・カワセミ・コサギ・アイガモ 22+1種

*午後から、過去の同ルートの鳥類調査結果と里山の変
 化についての話を杉浦支部長よりしていただいた。鳥が減少した原因について、環境の変化(地域的なもの
 と地球規模のこと)との関連について話された。

●五十鈴川上流探鳥会 (伊勢市)

日 時: 2月7日(日) 10:10~12:00

担 当: 杉浦邦彦 世古口有司

参加者: 30名

観察種: カワウ・コサギ・トビ・ノスリ・ハタカ2(ベア)・カワセミ・コ
 ゲラ・キセキレイ・セグロセキレイ・ヒヨドリ・モズ・カワガラス・ルリビタキ・
 シジュウカラ・ヤマガラ・エナガ・メジロ・ホオジロ・アオジ・イカル・カケス・
 ハシボソガラス・ハシトガラス 23種

*リーダーから資料も使ってかなり詳しい説明があつた。支部会員以外から参加費1000円を徴収した。

●勝田大池探鳥会 (玉城町)

日 時: 2月13日(土) 9:30~11:30

担 当: 西村泉 西村幹和

参加者: 16名

観察種: モズ・ケリ・ツグミ・カワラヒワ・イカル・トビ・カイツブリ・バン・
 カワウ・アオサギ・ダイサギ・イワツバメ・ハクセキレイ・ジョウビタキ・セグ
 ロセキレイ・ハタカ・キジバト・スズメ・ノスリ・アオジ・ホオジロ・ウグイス・
 ヒヨドリ・ムクドリ・タヒバリ・マガモ・ハシビロガモ・オカヨシガモ・コガモ・
 ホシハジロ・カルガモ・ヒドリガモ・ハシボソガラス・ハシトガラス

(カモ類総数約200)

34種

●真泥池大山田村村民探鳥会 (大山田村)

日 時: 2月14日(日) 10:00~14:00

担 当: 塗矢博一

参加者: 6名

観察種: アオサギ・カワラヒワ・セグロセキレイ・タゲリ・イソシギ・モズ・
 ハシトガラス・ハシボソガラス・ツグミ・キジバト・タヒバリ・ホオジロ・タシ
 ギ・ヒヨドリ・トビ・カシラダカ・マガモ・カルガモ・カワウ・スズメ 20種

●尾鷲探鳥会 (海山町)

日 時: 3月7日(日) 10:00~15:00

担 当: 三村通雄 藤原京子

参加者: 8名

観察種: マガモ・ヒドリガモ・カルガモ・オナガガモ・ウミウ・ウミネコ・
 セグロカモメ・アオサギ・オオセグロカモメ・チュウサギ・ダイサギ・アオサギ・
 ベニマシコ・ジョウビタキ・ホオジロ・ウグイス・ツグミ・キジ・ハシトガラス・
 ハシボソガラス・トビ・スズメ・ヒヨドリ・ムクドリ・ドバト 25種

●石垣池探鳥会 (鈴鹿市)

日 時: 3月7日(日) 10:00~12:00

担 当: 市川雄二 市川美代子

参加者: 13名

観察種: マガモ・コガモ・オナガガモ・ヒドリガモ・カワウ・ツバメ・キン
 ロハジロ・ハシビロガモ・ホシハジロ・オカヨシガモ・アオサギ・ハシトガラス・
 スズメ・カルガモ・キセキレイ・ヒヨドリ・カイツブリ・キジバト・ハクセキレイ
 19種

●宮川中流探鳥会 (度会町)

日 時: 3月14日(日) 9:30~11:30

担 当: 小坂里香 西村泉

参加者: 19名

観察種: オンドリ(ベア)・カイツブリ・カワウ・カワセミ・アオサギ・ウグ
 イス・ハシボソガラス・ヒヨドリ・セグロセキレイ・モズ・カワラヒワ・ハヤブサ
 (ベア)・メジロ・コゲラ・ハクセキレイ・カシラダカ・トビ・ツグミ・イカルチド
 リ・アオジ・キジバト・ヤマガラ・ムクドリ・ホオジロ・ビンズイ・ハタカsp
 (オオタカ?)ハイイロチュウヒ(メスタイプ)スズメ・ハシトガラス・イカル
 ドバト 31種

*地元の広報にも掲載したが参加者がなく残念。付近
 に計画中の産業廃棄物処分場や砂利採取などの問題提
 起をした。

●斎宮池探鳥会 (明和町)

日 時: 4月3日(土) 9:30~11:00

担 当: 西村泉

参加者: 8名

観察種: ホオジロ・カシラダカ・アオジ・カワラヒワ・カイツブリ・ビンズイ・
 カケス・ハシボソガラス・ヒヨドリ・カワウ・カワセミ・ウソ・トビ・ウグイス・
 ヤマガラ・コゲラ・ツバメ・メジロ・エナガ・キジバト・ハシトガラス

21種

*他の里山と同様に放棄水田や雑木林の放置がある。
 国営の溜め池拡張事業、町営リゾート施設計画など大
 規模な土地改変が予想される事業が目白押しである。

●阪内川探鳥会 (松阪市)

日時: 4月3日(土) 9:30~12:00

担当: 中村洋子 宮田たつ

参加者: 17名

観察種: コガモ・ヒヨドリ・ツバメ・ハシボソガラス・キジバト・モズ・ダイサギ・バン・ツグミ・ホオジロ・ケリ・イソシギ・アオジ・ムクドリ・ハクセキレイ・セグロセキレイ・ジョウビタキ・カワウ・カイツブリ・カワラヒワ・スズメ・トビ・ドバト 番外・イタチ 23種

●藤原岳探鳥会 (藤原町)

日時: 4月4日(日) 9:30~16:00

担当: 加藤光弘 村田芳雄

参加者: 7名

観察種: ヒヨドリ・ハシボソガラス・スズメ・ツバメ・コナギ・ホオジロ

アカゲラ・コゲラ・キセキレイ・カワラヒワ・トビ・クマタカ・カクス・エナガ・ヤマガラ・メジロ・シジュウカラ・キジバト・ウグイス・ジョウビタキ・ミソサザイ・ムクドリ・ハシボソガラス・ヒガラ・ビンズイ 25種

*草花の観察なども含まれていて好評だった。昨年台風による坂本谷の荒れがひどかった。

●宮川河口探鳥会 (伊勢市) 雨のため中止

日時: 4月18日(日) 9:30~11:30

担当: 小坂里香 吉居瑞穂

●県民の森探鳥会 (菟野町) 雨のため中止

日時: 4月24日(土) 9:30~12:00

担当: 矢田栄史 辻秀之

「しろちどり」の
原稿大募集

支部報「しろちどり」では、皆さんの原稿をお待ちしています。内容は野鳥や自然について思うこと、観察したこと、フィールド自慢、などなど。また、次のようなテーマもありますのでそちらのほうもよろしく。

「鳥信・短信びーちくばーちく」～ほんの一言のメッセージ、野鳥情報、誰かに聞いてほしいこと。

「しろちどり文芸」～短歌や俳句・詩など。

「似て非なる識別のヒント」～私の「必殺 野鳥の見分け方」

「特集」テーマ投稿～次号の特集は「三重県の干潟」です。干潟の思い出、私のとっておきの干潟、干潟での遊び方などについて。

「表紙絵」・「カット」～白黒のペンではっきりと描いてください。表紙は野鳥をテーマとしますが、カットは植物や風景でもかまいません。次号は海の絵大歓迎。

●原稿の宛先…

ファックス番号

パソコン通信

小坂里香

※表紙絵・カットは必ず郵便、または手渡しをお願いします。

●紙面の都合で掲載できないことや、添削させていただくこともありますので、あらかじめご了承ください。

編集後記

待たるるものは鶯の声、なんて思っているうちにあっさりとツバメが飛び、ついに先日アオバズクの声の聞こえました。あとはホトトギスが来るのが楽しみです。な今日この頃、季節の移り変わりは早いものです。毎年繰り返している自然の営みですが人間は忘却の生きもの、春が来るたびに、新緑とはこんなに美しいものだったかと目を見張ってしまいます。忘れっぽいことも悪いことばかりではありません。次の号がでるのは、ゆく夏を惜しむころです。原稿集めに追われてあつというまに3ヶ月が過ぎてしまうでしょう。まだまだパソコンに振り回されていますが、編集作業にもぼちぼち慣れていけばいいと思っています。

原稿依頼に応じて下さった皆様、いろいろ無理を聞いていただいてありがとうございます。 小坂

しろちどり 第23号 1999年5月発行

題字 濱田 稔

表紙絵 富岡 康之

カット 山田昭子・西村泉・小坂里香・田中豊成・鹿島素子

編集 小坂 里香

発行者 (財)日本野鳥の会 三重県支部

杉浦 邦彦方

〒516-0026 伊勢市宇治浦田2丁目9-4

印刷 館印刷

〒510-1321 三重郡菟野町田口1903-3

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。●